

在特会の論理（23）

——インターネットで世界が変わったW氏の場合——

樋口直人

徳島大学総合科学部

Logics of Zaitokukai Activists (23)

The Case of Mr. W

HIGUCHI Naoto

University of Tokushima

1. 経緯

本稿は、2011年11月5日に在日特権を許さない市民の会（在特会）の活動家であるW氏（40代男性）に対して実施した聞き取りを、意味が伝わりやすいように適宜並べ替えて再構成したものである¹。彼は、2008年に在特会に入会、2009年に初めて街頭演説に参加、それから支部運営となってさまざまな行事を組織する側となった。以下では、W氏の言葉をそのまま用いて活動家としての経歴をたどっていきたい。

2. 政治に対する関心

小学生の頃は新聞はぱらぱら読むくらいですよ。三面記事とか、小学校の時でも読んでいたのは確かですね、私なんかの時代では。今の

若い子だったら、小学生で活字を読むというのはあんまりないと思いますが。まあ、それは自分自身が読んでいただけであったから、他の人が全部当てはまるかといったら、そうでもないと思うんですけど。確かに、ニュースに関しては結構関心があったのは事実ですね。

ネットが広まるまでの間はテレビとか見ながらですね、その時はテレビだけの情報しかないからですね。たとえば筑紫哲也とか久米宏とかそういうキャスターしていた番組がありましたね。ああ、そういうものがあるのか、こういう風な考え方もあるのかという形で、特別情報源としてはそれしかなかったから、乏しかったから、何ともどっちつかずという立場だったですね。政治というかニュースに関しては結構興味があったんですけど、右だ左だとかいうのは何もその時はなかったですね。だから判断する基準がわからなかったんですよ。今のテレビの——テレビ局の体質を昔から疑ってなかったということですよ。だから一方的に垂れ流しでテレビ局の都合のいいような報道しかしない。ただネットの場合だったら双方向だから、そこらへんが「じゃあこういう風な話がある」ということで、検証する形ができるからですね。それによってちょっと考え方が「そうか」という風な感じで、自分自身変わってきたのがありますね。

（選挙には）もちろん行きます。行くといっても、

¹ 徳島市南常三島町 1-1 徳島大学総合科学部 (higuchinaoto@yahoo.co.jp)。これまでのまとめとして、樋口（2012a, 2012b, 2012c, 2012d, 2012e, 2012f, 2012g, 2012h, 2012i, 2013a, 2013b）を参照。これらはまとめて、樋口（2014）の資料編として位置づけられる。本稿も含む一連のまとめでは、聞き取りの中で発せられた差別的な言葉や見方をそのまま掲載している。資料としての意味を損ねないゆえのことであるが、それが苦渋の選択であることはご理解いただきたい。

行ったり行かなかったりという形で。仕事の都合で忙しくて行けなかったこともあったし、興味がなくて行かなかったということもありましたし。その時までは、そんなにあんま政治に関しては——ニュース見るということに関しては興味があったんですけど、それはどっちの思想かとかいうことはやはり、そういう考え方があるんだという形で別に否定はしなかったという形ですね。ただ、左翼とか過激派とかいうのは危ない人だなと思っていたんですけど、特別に考え方を否定するというのは——天皇陛下を貶めるような発言をする、そういう人もそういう考え方があるのか、ぐらいにしか思ってなかったんですね。

（投票先は）右左関係なく、会社が推す人間とか。それとか、この人はちょっとあんまり好きじゃないとか、そういう単純な理由で投票していました。（投票先は）会社員の当時は民社党とかいうのがあってですね——今は民主党に吸収されてるみたいなんですけど——労組関係だったら民社党ですかね、そういう風な感じの。同盟系ですかね、同盟系の候補に入れていたね。自民党は、その時入れたり入れなかったりという形で。まあ、共産党はちょっとやっぱり入れたくないというのはありました。詳しくはわからなかったんですけど、入れたことはなかったですね。（社会党には）頼まれた時は1回くらい入れましたね——という気がしますね。それも別に深い考えじゃなかったですね。何回も言うように、画期的に変わったのはネット見てからですね。

（インターネットをみるようになってからは）左翼とはそういうのは——社民党はだめですよね。民主党はどうかなという感じがあったんですが、民主党もいろいろなところに、社民党やめたりとかそういう集団ばかりで、人間自体も結構左系とか多かったからという感じですね。自民党にも左系とかいることはいるんですけどね、基本消去法でいったら、しょうがなく自民党しかないかなというところですね。ただ自民党でも、そういうような形でちょっとおかしい人がいるのだったら、誰も投票するところがないから、批判票のような形で幸福（実現党）と

かそういうところに投票したというのも1回ありましたね。これは批判票だから、そこを推しているつもりではなかったですけどね。入れる選択肢がないとなったら、それしかしょうがないかなという感じで。

3. 外国人との接点

基本的にはないですね。ただ、いろいろそういう風なのに興味を持ちだして、2000年以降ですけどね、そういう風な形になって興味を持ちだしたときに、在日朝鮮人とかそういうのが身近にいるかもしれないと考えた時に、同級生の身近な人間というか、同級生であった人間ですよ。家が何しておったとか、これしておったとかいう風な形で、こいつはもしかしてそうじゃないかなと、調べたら現実にそうだったという人間がいましたね。そういう風な人間は、未だに知っていることは知っているんですけど、私がそういう活動をしているのは知っています。まあ、しょっちゅう会うわけでもないですからね。心の中では、口に出してそういうことを言うわけではないですけどね、友達というか同級生ですから。

（それまでは）そこまで考えてなかったというのか、そこまで深く考えることもなかったということですね。ただ「朝鮮人が朝鮮人が」という話は、昔からあったことはあったんですけどね。ただ聞いても、俺に関係ない世界としか思ってなかったんじゃないですかね。この問題というのは、その人その人が興味を持って考えないと、わからないと思いますね。一般的にそういうこと考える余裕がない人がほとんどですから。自分の趣味とか仕事で忙しかったりして、そんなことやる余裕がない。もちろんこちらでも仕事が暇ということはないですけど、たまたま自分が興味があったからということですけど。

東京とか行ったら白人とか含めてブラジル人とか交差点とかで、周りが多かったですね。東京はやっぱりそうなんだ、多いなという感じですね。徐々に多くなったのは確かですね。アメリカ人とか一見みてわかる方ですね。ただ私なんかは、別に特別アメリカ人がどうのこうのとかがいう形で異議を言うということはないです。ひいきしているということではないです、ヨーロッパ人とかイタリア人とかドイツ人とかですね。ただ、その国にいるのならば、

その国の習わしに基づいて、生活している外国人に対しては何もいうべきことはないですね。

ただ、在日朝鮮人というのが今なぜいるのかと考えたのはなかったんですね。ほとんどというか100%と言っていいほど、不法入国ですね。それは事実ですよ。在日という形でいる人は永住権を持っているわけですね、そういう方は不法入国ですね。現実には戦前に徴用で245人の朝鮮人が、徴用といたら日本人でいたら赤紙ですね。その朝鮮人版が245人。あとは自分で志願してから陸軍士官学校とか、海軍兵学校とか行ったのもいることはいるんですね。そういう風な方は全部帰られている。戦前日本人であった朝鮮・韓国も日本国であったものだから、その中で日本にいた人間がそのまま居座り続けている。その二世三世という感じですね。だからそういう風な方もですね、日本にいう、百歩譲って日本国に永住するという考えであるならばですね、日本国に帰化して日本のためにやるなら別にかまわないです。それなら全然問題ないですね。

ただそうじゃなくて、そういう特権とかいうのを生かしてですね——なぜ特権が生まれるかも不思議なんですけどね——弱者利権みたいな形でそういうのを振りかざしてやるのがいやなんです。生活保護に関しても、もう日本人の比率と比べて考えた場合、すごく高いですよ。在日朝鮮人の方の生活保護受給率は。そういう風なもの、おかしいと思うし。まあ、樋口さんの考え方からしたら、そういう風な外国人は差別するなという形に持っていかれるのかもしれないですけど、これは差別でも区別でもなんでもありません。便利な言葉で差別とかそういうのは、私はあると思います。日本人の方が逆差別されているんだと、私は思います。日本人の方が生活保護本当にもらいたくても、そういう風な組織もないし。1人がまともに生活保護をもらおうと思っても、絶対却下されるのは目に見えてるんですね。

4. 活動につながるきっかけ

転機は、はっきりいってネットを使い出してここ十何年くらいですかね。それからですね。

今までの考え方、やはりちょっと違っていたなという感じは。(インターネットを使い出したのは)1999年からです。パソコン自体はWindows 95が出た時に半年くらいしてからNECのパソコン買って、その時はそこではワープロ機能とか使う、仕事で使ったりとかあったんですね。でもネットには自宅ですらないでなかったものですね、会社でもつないでたところなかったと思うんですけど。ネットをつなげたのは1999年になってからですね。それからですね、いろんなサイトを見ながら、結構興味は、新聞は結構三面記事とか面白記事を探していたくらいですから。性格的に、真剣に調べるということに関しては興味があったから、パソコンにはまりこんでいったのは確かですね。その中で政治的な発言があったりして、最初はもうそういう考えがあるのかなと思いつつも……。

2002年のワールドカップですね。それが始まった年ぐらいには、あのときの韓国人が日本に関しての考え方がちょっとおかしいんじゃないかというのが、ネットでいろいろ出てきて。やっぱよく調べたらこういうことがある、これはデマじゃないのかといったら検証づけて裏付けを探してみたら、やっぱそうなんだって確証をつかめた感じですね。

あと2002年はまた拉致問題の関係もあったから。その拉致問題に関しては、週刊誌で1990年代後半くらいですかね、5、6年かそこら書き始めたのがあったんですね。書いていた記事が。それは本当かどうかと考えると、でもあの北だったらありえないことはないな、という形で。で、2002年にサッカーが終わってから拉致被害者がどうのこうのというニュースが……。もしかしたらあの話は本当だったのかなということですね。初めて衝撃的という感じがあったんですね。それからですね、やっぱ。その事件があった後については、人間というのはそこらへんで、こいつら何するのかという形で考えてしまうんですね。やっぱ、検索すればするほどいろんな情報が出てきて。ただデマみたいな感じも当然あったりするんですけど、デマを検証することがネットはできるから。そこら辺が確信というか。現実、竹島問題とか、韓国が占領しているのもそうです。どう考えてもおかしいでしょ、というのが。

(サッカーは)特別好きというわけじゃなかったですね。その時までですね。2002年のワールド

カップでも、特別あまり関心はなかったですね。どちらかというと野球とかのほうが——日本は昔野球の方がメインだったわけですから。ワールドカップは 90 年代中頃くらいから、ワールドカップに出る出ないということで人気が出てきたじゃないんですかね。代表とかいったら興味はありますけど、普通に地元のチームとかですね、そういう風なのはあまり興味なかったですね。ワールドカップの関係がですね、日本代表の試合とかは見ますけど。（韓国対）イタリア戦とかですね——記憶にあると思うんですけどね——かなり乱暴なプレイとか。その時までは、やっぱりネットで、その時はそういうプレイをしたという風なことはあまり気づかないですね。後からネットをみたら、あ、こういうプレイをした、そうだったかなあと。思い返してみたら、検証サイトで何ヶ所か見たら——その時に動画サイトがあったか覚えてないですけどね——ああそうなのかな。まあ、韓国を応援したりする時にはしておったんですね、確かに。近いからということで、隣国だからということで。大体の方は、ワールドカップの時に韓国チームの日本に対する態度、そういうのがちょっとおかしいと気づいたと思うんですけどね。でも、私はその時はまだまだという感じで、拉致問題が出てから明らかに、というか初めて認識しましたね。

やっぱり要するに朝鮮人、韓国人の問題だけでなくてですね——それだけだったらそれで終わるんですね。ただ私なんかの行動というのは、何があるかという、日本国というのがあるわけですね。国益ですわね。それを害するような団体とかは、たとえ日本人でも許せないという感じがあるわけですね。日本国民としては、皆さんがそういう考えじゃないんですけどね、私はそう思いますわね。だから、それはもう自分自身に何の関係もないことですよ。何の知識もない人とかそういう風な人には、何でそんなことするのか馬鹿やねえとか。そういう感じで、まあ友達なんかでは話したらそういう風と言われる時も、前はあったですよ。でもここ最近では民主党政権になってから、かなりおかしいぞという感じになって、皆さんもそれなりに

認識し出したと思うんですけど。自分にメリットがあるかないかといったら、まったく関係ないんですね。でもやっぱ、行動せずにはいられないというかなですね、報酬とかそんなこと抜きにして。やはり言うべきことは言わんとだめだなと。今もその考えですね。

5. ネットからリアルでの参加へ

（見ていたのは）大体コミュニティサイトで、いわゆる代表的な 2 ちゃんねるとかですね。そういう風なサイトですよ。ああいうのも全部が全部信用できるわけじゃないんですけど、結局それを検証するという、その情報は何なんだというのがあるんですよ。現実には、掲示板とか 2 ちゃんねる見たら、こういう事実があるんだよという形で。そして今は検索は便利でキーワードを入れたら、すぐぱっと出る。ワールドカップが終わったくらいまではまだまだですよ。拉致問題ができてからですよ。ただ、Windows は普通に使っていましたけど、そこまでまだ興味がなかった、検索するまでの興味はなかったという形ですね。

政府の出した資料とかですね。たとえば従軍慰安婦の問題、それは本当にいるのか。それは最初検索で、テレビばっかしの時はそういうことはまったくわからなかったから、ああそうかなという感じしか持ってなかったんですけど。現実にはいろいろと検索してみたら、政府資料としてはそれは戦地売春婦だったということで。今でいう要するに歓楽街の中にある女郎部屋みたいな風俗店、そういう風なのと同じ扱いだなという形でお金をもらえるから。しかも自分なんか志願して、強制連行ということで、トラックに乗せられて、無理矢理犯されてとかそういう風な問題じゃないですわね、それはまったく捏造というのが明らかになっているから。一次資料としてはそんなことなく。自分なんかはお金がないから望んでやったということですよ。しかも、合法的にやっているということですよ。それを韓国軍がベトナム戦争の時に、韓国人との子どもで強姦してからできた子どもというのがごっそりいるというニュースもありますよ。日本はそういう従軍慰安婦と言われる人との間の子は 1 人もいない。それははっきり言って、そこまで統括されていたということは事実ですよ。突撃一番とかいうコンドーム

があったみたいだから。今は従軍慰安婦がどうのこうの言うのだったらすね、今すぐに日本から風俗関係、外国人の女、朝鮮人の女を全部強制送還しないとだめですよ。そういう風なこと言えない。それは非常におかしいと思うわけですよ。従軍慰安婦ということで後押しする左翼の日本人がいたりするんですけど、それで日本政府から金を巻き上げるということを率先している国会議員がいたりするから。

(ネットでの)書き込み云々はしたこともありますよね。活動し始めたのが一昨年くらいから徐々にという形だったから、7年間。在特会ができたのが2006年の終わりですよ。それまでは、核になるようなそういう風な頭になるような人間が出てこなかったということがあります。だから皆さん、私も含めて歯がゆいというかがあったと思うし。マスコミとかに相当(「偏った」情報が)まわってますから。1人で最初にするというのは、かなり勇気がいると思います。今となっては集団になってからは、そういう活動をしようということで堂々とやってますけどね。それまでは朝鮮人の批判するとヤクザとかそういう感じのが結構出てくるとか、ある意味恐いとかいうのが確かにあったのは事実ですよ。だから要するに、ネットでそういう形で新たな情報とかデマとかですよ、たとえば私なんかデマ関係ないんですけど、私は自営業してるんですけどね、その中で電話かかってくるわけですよ。朝鮮人じゃないんですけど、同和の関係の人間から電話がかかってくるんですよ。「社長、同和なんとかなんとかの者なんですけど、今度同和20周年というアルバムが出るんですよ、それを5万円で買いませんか」と言ってくるわけですよ。最初のうちはそんなこと何もわからなかったですから、大変申し訳ないんですけど、うちも貧乏なもんでとかやったわけなんですけどね。結局そういう詐欺というのがわかったと、何だこれはという感じになってしまいますよね。もう、そういう風なものもネットで検索したというよりか、それはデマだなという形で確認したわけですよ。

ネットする前から電話かかってくる、「何で電話なんだろう、何で俺の家に電話」・・・片っ端か

ら電話するんですよ。日本人は差別というとも何とも言えなくなるから、それをうまく利用してお金をせしめる。そういう詐欺というのは、初めてそういうのがあるのかとわかったんですよ。ただ、あくまで朝鮮人から利害関係があつてちょっとこういう目にあうとかいうのがあったというのは、直接はないんですけど——私自身はですよ。

会社員である時にはそういうのには遭遇しませんでしたね。そういう電話がかかってくるような部署でもなかったからですよ。そういうのがかかってくるとしても、総務で対応していたみたいな感じですよ。いろいろな詐欺があるということですが。

何とか抗議の声を上げるところはないのか、という形で常にいたんですよ。救う会があっても、やっぱり強く抗議するという形でもなかったですよ。会合とか横田夫妻とかそういう方が出ての会ですかね、そういう風なものには何回か行ったことがありますね。来るというから聞きに行こうかと。(情報は)新聞とか、どっかからチラシを見たことが。あとニュースかネットか何か知らないですけど、その辺は記憶が定かでないですよ。そういう情報があるなら行こうかと。救う会とかそういう形のは、いろいろ(な所に)行ったりしているんですけど、活動内容が街宣というわけじゃないから。あくまで拉致問題とかそういう絞った団体だったからですよ。結局、今となっては尻すぼみになっているところがあると思うんですけどね。

(それから続かなかったのは)活動といっても今、在特会みたいにしょっちゅう活動しているわけじゃないですからね。横田さんも全国回っているから、関心が薄れていく感じですよ。横田さんとか救う会とかも、街宣活動とかメインにしてなかったですよ。ほとんど何とか会館とかそういうところで講演会を開いていただけだから。ただ聞くことに関してはいいと思うんですけど、それを訴える場所が多くないとだめだと思いますね。あとまあ横田さんなんかは拉致問題とかそういう風な形に特化した——まあ当然ですけどね——それだけだとなかなかしょっちゅう行くというのは、段々と薄れてくると思うんですよ。

6. 参加へ

在特会を知ったというんですよ、名前を聞いた

のは発足当時からですよ。桜井会長がそういう風な形の団体を作るといことで、まず最初にネットでそういうニュースがあつて。ニュースというか、情報で出ていたんですよ。掲示板ですよ。2ちゃんねる等の掲示板とかで、そういう風なのができるという形で、最初にすぐに入会しようかなと思ったんですけど、一瞬ためらいがあつて。1年くらいして入ったんですよ。住所名前とかメールアドレスとか書いたりとか、そういうのがあるんですよ。趣旨には賛同するけど、ちょっと様子を見てみようかなというのがあつたんですよ。（会員番号は）2700かそれくらいですよ。3000番弱だったと思いますけどね。入ったのは早かったけど、活動するのは早くなかったですよ。メール会員になってからですよ。運営までするとは思ってなかったから。

情報としては見るだけですけど、見ていたのは確かですね。その時にちょうど動画が出てきた、Youtubeとか動画が出てきたくらいですよ。それを見て、やっぱ動画の威力はすごいですよね。ああ、こういう風な感じで街宣するのか、すごいという形ですよ。それを見て、自分も何かできることがあればという形で始めたのが、参加するきっかけですね。

（在特会の特徴は）「行動する保守」ですかね。在特会が先駆けじゃないですかね。そういう形で（直接行動するのは）一番に在特会は回数的には相当多いですからね。地元にもあるし。まあ、東京とかに一極集中してあるということであれば、賛同会員としては名を連ねたいと思うんですけど、東京にしょっちゅう行くのは無理だから。そういう形だったら、私もと思うんですよ。だから桜井会長は、そういうので済まらずに、全国に支部を作ってきてきた方ですね。あの人が頭になってなかったなら、ここまではないと私は思ってるんですけどね。あの人のカリスマ性はすごいと思ってますね。

（他の団体は）内輪だけだから。議論するだけであつてですね。要するに私なんか——居酒屋保守といいますよね、自分なんかだけでパネル・ディスカッションやって、自分なんかだけだから自己満足して終わる世界ですよ。そう

いう風なのが、保守系団体の中でずっと続いてきたわけですよ。そういう風なことを続けてきた結果、何が変わったかという全然変わっていないわけですよ。そういう保守系の人間には、日本人だったらおとなしくしろ、荒い言葉を使うなとか。そういう風なこと、日本人の民族性が疑われるようなことをするなとか、そういう揚げ足取りばかりして結局できなかったというのがありますね。在特会は初めて批判の声を上げたんです。主権回復とかもあつたんですけどね。ある程度そこらへんは、ずばつとすることができる団体というのが・・・他にもそういう風な悪いことはあまり言いたくないみたいな感じですが、活動の範囲が狭められている感じですね。

前から行きたいなと思いつつ、自分自身の中で、ああいうのに出るのはどうかなと躊躇いがあつたのは事実ですね。半年ぐらい前から行きたいなとは薄々と思つてたんですよ。そういう動画が結構公開されるに従つてですね。そこら辺は賛同できると自分自身思ったからですよ。まあ自分自身は、そういう活動をしたことがなかったから、人間というのはそういう活動したことなければ、最初はためらいますよね。自分とは関係ないような分野のことで、自分に直接関わりあるんだつたらあれですけど関係ないからですね、そこでどうかな—ということはあるんですよ。（会場が）ちょっと遠いかなとか。

（過去の運動経験は）まったくそういうような性格でもなかったですね。大体、組合とかそういう活動もしたことなかったんですよ。さっきから言うことと同じかもしれないけど、いてもたってもいられないというか、具体性はあまりないんですけどね。結局その、たまってきてから俺も参加したいとか思つたと思いますね。事前には連絡してないですよ。その時初めて飛び入り参加して。

（最初に参加したのは）2009年9月くらいですかね。街宣に参加して。そしてプラカード持ってから、旗を持つくらいしかできなかったですね。その時は支部長が何か言ってみなといたんですよけど、さすがに演説できる能力もまったくないし、という感じで。今でもあんまりあるわけではないんですけど。でもやっぱ、片言でも自分の訴えを、持ってきたことを訴えたいなという感じがあつてですね。

街宣活動をする人がいるなかで、自分自身何もしないというのは、自分自身の中でちょっと・・・俺

も活動に参加して、手助けできることがあったらいいかなという簡単な考えですよ。(活動場所が) 遠いというのがあったんですよ。でもいてもたってもいれなくてですね。それからすぐに支部ができて、〇〇さんが支部長になってくれたからですね、じゃあやろうかと。

(実際参加してみて) ちょっと過激な言葉も最初はあるかなと思ったんですけどね。でもそれは、確かな、まともなことだから、言っている内容は正解だから。ある意味、最初聞いたらびっくりするとは思いますが、言って当然だなと思ったんですけどね。

(それ以降は) 仕事の関係でちょっと行っていない時もあったんですけど、3ヶ月に1回くらいは何とか出席するような形ですね。私自身がマイク持って言い出したくらいから、しょっちゅう参加するようになったんですね。マイク持ってといっても、そんなに長い演説はできないから。長くて10分くらいですよ。やっぱり皆さんに気づいてほしいという気持ちから、これはもう自己満足みたいな世界かもしれないですけど——何もしないところでは、無視する人もいるから。でも、そのうちに何人かが気づいてくれればいいと思うから。いきなり100%そんなというのはあり得ないから。

顔さらしてまずい人はサングラスかけてやっていますけどね。私自身は地元だったらサングラスはかけたいと思うんですけど、帽子とかかぶったりすればそうはわかりませんよね。アップで写すことはないから。ああ、誰かどこかに似ている人がいるな、としか思わないですよ。最初のうちは戸惑いがあったんですが、段々やっていくうちに、1億2000万人日本人がいるんですから、似ている人が何人かいるんですから。帽子かぶっているんだし。でもわかったならわかったで、別にいいのかなと最近は思ったりもするんですけどね。ただ地元にはわかるのはあまり好きじゃないですね。(地元では) 年に1回のペースで、一応サングラスはしますね。地元では特定されるのは好きじゃないですけどね。そういうのは、サングラスと帽子かぶってからすればいいんじゃないかなと思いますけどね。

7. 朝鮮半島と在日コリアンについて

(筆者が質問したところ) 韓国と北朝鮮というまったく別の国という形で今おっしゃったんですけどね、元は一緒、民族が。ただ、たまたま国が2つに分かれているということであって、私なんかは完璧にその2つは同じだと思っています。まったくの。ただ北は貧乏だから、南の方がそこそこ裕福としか思っていないからね。民族性は全部同じだと思っていますよ。いわゆる日本が悪いことしたとか、日本人の無知にかこつけて謝罪しろ賠償しろとか、竹島を占領したとか、そういう風な人間どもとしか思っていないですからね。

何でそういう風な民族なのか、民族性がそういう風にあるのか、犯罪が多いとか。まあ犯罪とかいうことをキーワードにいろいろ調べていたりとかしたら、やはり外国人犯罪ですとか国が出しているのありますよね。犯罪発生率とか。韓国人が何人で、中国人が何人で、そこで一番多いのが中国人ですけどね。それで日本人の犯罪率が極端に低いということになれば、外国人というのは、全部が全部というわけではないですけどね、気をつけた方がいいと思いますね。だからアメリカ人が犯罪が多いといっても、中国人とか韓国人に比べたら、日本の中では低いですよ。だから、全部が全部そういう風な人間でないというのはわかりますけど、犯罪率が高くなったそれは要注意になると思うんですね。そういう風な形でみると、また差別とか言うのがおかしいわけであって、それは区別という形の問題であって。それをまた今度、逆手にとって差別だとか、お前の考え方はおかしいと決めつけるのがまたおかしいですね。向こうだって日本人を完璧に差別していますよね。日の丸を——国旗を踏みにじる、焼く、引き裂く、そういう風なこと自体はちょっと外国の人に対してそういう風なことを——その国の方に対してどうかしている。

犯罪率が高いですよ。それを結構みてから、どういう結論出すかというのは人によって考えはいろいろあると思うんですが。私は犯罪率が高い人間というのは、そういう風な形で用心していたほうがいいんじゃないかと思うから。と同時に、犯罪を犯していなくても犯罪すれすれみたいなことをしているというのが、従軍慰安婦の問題ですね。まったく事実じゃないようなことで、国からお金をせしめ

るとか。要するに詐欺ですね。そういう風なことが堂々に行われているのが ちょっと許せない。なぜ在日で日本にいるのかということですね。それはやっぱ、どう考えても日本におるといことであれば、日本人に帰化するのが普通じゃないんですかね。帰化して普通に帰化してですね、普通に日本人と同じような生活すればいいわけですよ。そうしたら何も言わんですよ。犯罪犯さないでおとなしくしていればいいですよ。在日朝鮮人であるというのは何ですか、ということ。国籍がなかなか取れないとか、ハードルが高いとかということもないから。取れるんですから、今は。

それははっきり言って向こうのメンタリティとしては、在日韓国・朝鮮人のメンタリティをなくしたくない。といいますよね。それなら帰ってくれ、帰ればいいじゃないですか。なぜ帰らないんですか。それはその根底に何があるかといったら、在日朝鮮人であるということが、メリットがあるということじゃないんですか、と言いたいわけなんですよ。

在日朝鮮人の無年金問題とか。年金を掛けていないにもかかわらず、年金訴訟で金をくれとかいう感じで。年金問題の時に感じたのは、在日朝鮮人が入れないということはなかったです。昭和34年か35年かそこら辺から年金制度が始まったと思うんですけどね。その時から在日朝鮮人も入れることは入れるという形で決めていたらしいんですけど、在日朝鮮人はいずれ韓国に帰るから俺たちは入らない。それは実質強制的に徴収されるという形だったから、そうされるのがいやだということで、帰るということを盾に入らなかったわけですよ。今の時点になってから、もう自分自身が俺たちは帰れなかったと嘘を言う。そして年金——日本人のために積み立てた年金を詐取する。これはちょっと違うでしょと思います。保険だって、普通の生命保険だってそうですよ。何も掛けてないのに、掛ける保険制度がなかったから、そんな制度があるというのを知らなくて、俺は知らなかったから保険会社にくれと言っても通るわけがない。どう考えてもおかしいと思いますよね。

（関心は）全般的に在日朝鮮人の問題はほと

んどですね。在特会も在日朝鮮人の問題だけじゃないでしょう。在日朝鮮人だけの問題だったら、もう在特会に行ってもしょうがないなと思うけど、今は民主党問題とかですね。在日朝鮮人だけじゃないという考え方ですよ。日本にいる、日本を壊したいような正義感、左翼含めて、そういう方が非常になんでそう考えて活動するのか、私自身が不思議なんですけどね。ただ、アメリカ人でも——そういう風な形の、一般の外国人ですよ、そういう外国人と共生するとなると私は別に構わんと思うんです。政治的に特権を得たいような形で、強引に割り込んでくる中国人、韓国人というのが許せない。だから、全部を否定するわけでは私の中ではないんです。そこはあまりに異民族がいっぱい来て、日本人が淘汰されるような形では賛成しかねるんですけどね。ただ日本の秩序を守って、郷に従えではないですけど、そういう形でやってくれる外国人ならば問題ないですよ。

ただ民族的にどうしても考え方が違いますね。それを成功するかどうかといったら、かなり成功率は低いですよ。なぜかといったら——オランダですよ、その実態はどうなんですかということですよ。ノルウェイの乱射事件、そういう風なものもなぜ起きたか。原因は知ってますよね。根底にあるのは移民政策なんですよ。ドイツにしてもフランスにしても、イギリス、オランダ、スウェーデン、移民政策は実質どこかの政治家、どこかの国の首相が言ったかもしれないですけど、移民政策は失敗だったと決めてますよね。民族が違うんだから、イデオロギーが違うんだから、多文化共生というのは厳しいんじゃないんですかね。私は失敗する確率が高いと思うんですよ。成功する可能性は1%もないかなと思ったりするんですよ。そこで今度は犯罪、強盗、強姦——犯罪がむちゃくちゃ巻き起こる環境に日本をさらしていいのかということですね。

いわゆる日韓併合とか戦前の時代もありますよね。それ以前の朝鮮というのはどういう状況だったかと考えた時、あの国は日本が作ったと思うんですよ。日本は日韓併合、朝鮮併合する前がどういう風な状況だったかということはわかってますよね。チャンダムという宮廷料理とかそういうのを作る状況じゃなかった、あれは嘘ですからね。で、日本がインフラ整備して、今でいう戦争終了までに朝鮮半

島に残した資産、今の金額にして 17 兆円くらいを投下して。それを全部どうぞという形で引き上げてきたんですね。そのインフラがあったからこそ発展して。今度日韓基本条約——1965 年、そのときもお金をあげる筋合いはまったくなかったわけですけど、今の金額でいう 5 兆円くらい出して。それを 1 人 1 人に日本が配ろうという形になったらしいんですね。それも配らんでいいお金だと思うんですけど。それを国がまとめて 1 人 1 人に渡すからということで国に渡したんだけど、そのお金をインフラ整備に、社会資本の整備に全部使ってますます良くなったという感じですね。だから、日本はそれ以上謝罪とかする必要がまったくないわけですよ。最初からない上に、相当の金を渡している。それ以上に 韓国の通貨スワップの問題もあったわけですよ。そういう風な形のもあったんですけどね、その時も日本は援助しておいて、そのお金をまだ返してもらっていない。それってやっぱ、そこまでして何で反日なのかという、そこら辺はやっぱどう考えても許せんですわね。

韓流が多いというの、まあ要するに、政治家を使って結構動かそうとしてますよね。韓流とかチャングムとかフジテレビとかね。あれも結局、韓国ブランド委員会から金をもらっているからと思うんですけど。現実には払っているという方もいるかもしれないですけど、結局疑問符ですよ。私の前では存在しないし。そういう風な力が強大ですよ。韓国人朝鮮人はテレビ局も牛耳っているし、政治家にもお金を渡す。その資金源は何かというとパチンコとかそういうのです。パチンコ経営というの 80%とか 90%とかあるんですね。在日朝鮮人が経営しているというのが——90%はないかもしれませんが。豊富なお金を使って、警察権力とか司法とか、国の政治と関係を持って浸食してるという。在日朝鮮人の異様な感じの法律しか出てこんですからね。だから日本の国を守るとか、自衛隊とかは叩きまくって。それはちとおかしいと思うんですよ。そこでやはり多文化共生とかそういう話も出てくるかもしれないですけど、結局浸食されちゃうのと同じですよ。私はそう

いう風にしか思っていないから。だからそういう風なのを含めて、在特会。在特会は、さっき言ったように民主党関連の政治とか TPP 問題に関しても、ずっと範囲を狭めずに広く演説するから、街宣するからですね。

それだけじゃないですよ。複合的な問題ですよ。それも一部ですよ。それ 1 つだけだったら、あと他のことはいいということであれば、そんなに興味を持たないですよ。今、しゃべっていることが本当に一部だと、他にいろんな問題があるから。

8. 活動を持続させる動機

自分には関係ない(こと)かもしれないですけど、自分の思いですかね。金をかけてまで行きたいというのは、うまい言葉では表せないかもしれないですけど、民族とか日本が危ないとかいう風な形で。左翼の方から言わしたら、それは妄想ですよと思われるかもしれないですけど。やはり私も言いたいという気持ちも強いから。それは、そういうのに時間かけてアホだなと思う人もいると思うんですけど、私はそれでいい。結局、皆さんお金を使うことに関して、メリットがあるかないか考えるんじゃないんですか。自分で損をすれば金を出さないという感じですね。在特会の活動というのは、それを抜きにしても自分自身賛同できるからというのがあるからですね。人からどう思われようと、それはいいかなと思います。ただまあ、それなりに仕事もしてないと活動できないですからね。お金がないとどうしてもできないから²。それは普通一般的な普通通りの仕事をしているからですね。自分が経営者であって、従業員がいるから。

自己満足の世界かもしれないですけど、皆さんに訴えられてよかったという風なことが一番ですね。周りの人は見たら何も興味もないで過ぎ去って行く人もいれば、立ち止まってじっと聞いている人もいますからね。良かったことと云ったら、皆さんにちょっとでも周知できたのはいいんじゃないかと思えますね。あとポスティング、ビラ配りですよ。そういう風なもの何百部、自分が配ったのが 250 部とか 300 部とか 500 部とか配る時があるんです

² 彼自身は、在特会の通常のイベントに参加するに際して、毎回 1 万円強の費用をかけている。

けど、そのうちの10人でもいい、5人でもいいからそれに興味を持ってみて、それを考えてくれるだけでいいですよ。ほとんどが ビラ というのも広告みたいに捨てられてしまうと思うと……でも、最初から興味を持っている人はおらんのですよ。そこはある程度しょうがないと思いますけど。ちょっとでも周知してもらえたらいいかな、というところでやっているから。

左の方は資金的には潤沢ですよ。左翼の方は労働組合とか巻き込んでやっていますよね。労働組合の（場合）、趣旨に賛同するもしないも関係なく、従業員であれば日産とかトヨタとかであれば、労組に強制加入で労組の金を引かれるわけですね。そういう風なのを使って左翼活動をしているのも事実で。男女共同参画とかかわかわからんのがありますが、それも左翼が突き上げて作ったものだと思うんですね。男女共同参画とは女が差別されているからというので作ったものだから。実質、男と女といったら全然違うものだから、差別もくそもない、それは区別の問題ですよ。それをなぜ差別とかいって駆り立てるのかという問題で、男女共同参画というのが出てきますよね。そういう風なお金から、左翼団体はお金が流れていると思いますよね。左翼の方はお金を引き出すのがすごくうまいとは思いますが。

右の関係で専従という人はいませんね。桜井会長を含めて仕事持っています。専従という形でやっている方はまずいない。行動でも左翼運動じゃなくて、制限が——時間の制限がある。その中で皆さんが自分自身の思い入れから活動するということだからお金が出て、それを給料としてバイト代としてやるのだったら集まるかもしれないですけど、そういうものじゃないですね。だから、在特会はお金でつられる団体ではない、全部自腹切って街宣のトラメガ、マイクとか自前でやっているから。私も相当お金は出しているから、交通費だけじゃないですから。

右翼という言葉で、日本人は怖いと思うこと自体がおかしいんですね。あれも街宣右翼があるから、君が代を大音量で流す人が怖いというのは、街宣右翼によって押しつけられたイメージだと思うんですけど。軍艦マーチとかパチン

コ屋でかかっている、それはいわゆる工作なんですよ。完璧に工作なんですよ。本当に日本のことを思っていない人間が、がなりたてるとか、恐い言葉で脅すとか。だから、国旗とか国歌とかどうでもいいなとしか思わせない形の工作だから。私が考えるにあれは完璧に裏で左翼の別働隊だと思うんですね。それしかあり得ない。日本を貶めることをメインに活動している。街宣右翼とかナントカ塾とか捕まったりする。みんな在日朝鮮人が多いですよ。それをどう説明されるのかということですよ。何で在日朝鮮人が街宣右翼しているの？という感じですね。昔から相当工作が入っているわけですね。

私が思うに、私自身は愛国心は当然強いと思いますが、日本人に生まれてから——アメリカとか中国もそうだと思うんですよ。たとえば中国なんかも北京オリンピック、その時も聖火リレーとか日本でもやったんですけど、党員かどうか分からないですけど、国から動員されたかわからないけど、中国国旗のでかいのを振って、車から抜け出して国旗を振ってやる。道交法違反ですね。そこまでするから「えー」とか思ったりするんですけど、日本人のメンタリティとか考えないと思うんですけどね。そういう風な形でできるというのがすごいというか。アメリカとかでも政治活動したら全然違うじゃないですか、それが普通だと思うんですね。

（家族の反応は）それは——そうですねえ、まあ身内の人間はそれほど関心なかったりするのもあるんですけどね。でも自分がやることに関しては、反対はしないという感じですね。最初はやはり「えー」という感じで思われたんですけどね。それはまあ、話して行って「実はこうこうである」と説得していけばいいと思うんですけど、そういう説得するという時間にかかるし、まあいいじゃんという形で。

在特会は在特会で、好きな人の集まりですからね。その中で友達ができてという風な形では、あまりないですね。自分なんかの友達はそれとは関係ない。同級生ですから、それとは在特会の話してもしようがないんですけど。ただ、政治的な話には結構なったりしますよね。この歳になったら。ニュースがつまらんとか、どこの国が政治がとか、酒飲んだ時に議論はしますよね。まあそんなもんだから。在特会は在特会で活動に対することしか、別に……それでもいいと思うんですよ。慣れ合いとかそういうのが

したいわけではないですから。

9. 結語に代えて

極右活動家に対してライフヒストリー調査を行う理由の1つは、他の調査では必要なデータが得られにくいことにある。調査ができたとしても、極右団体の活動家から正確な情報を得るのは極端に難しい、と人種主義団体の女性を調査したブリーという (Blee 1996: 687)。質問紙調査を行ったとしても、正直に答えない可能性が高い。構造化面接を行っても、単に自分の信念を繰り返すだけに終わってしまう。それに対して、ライフヒストリーという方法は、こうした方法論的問題の多くを解決する。信念や組織に対する関わりではなく対象者自身のライフヒストリーから始めることにより、組織の方針を自らのものとして語らなくなる。

だが、W氏はこれまで聞き取りをした中でも特に「語りたい」欲求を強く持ち、問わず語りでネットを介して得た情報を話し出した。右翼を「工作」とするところまで、彼の妄想の体系は完成の域に入っているといっていよう。また、筆者を「左翼」だと認識しつつ、彼の関心について議論したいという欲求も強く表明していた。そうした「ひたむきさ」が彼の特徴だといっていよう。

彼自身は、もともとは日課として新聞を読み、政治にも普通程度の関心を持ち、同盟系労組の組合員として民社党に投票もしていた。その意味で、きわめて「昭和的」な「正常人口の正常生活」を営んでいた。それを変えたのが自宅でのインターネット環境の整備であり、一言で言えば「ネットにはまった」くちということになるだろう。それは、自分で調べて「検証」という意味での知的好奇心も満足させられたし、「発見」に対する知的興奮もあったのだろう。だが、それまでは歴史修正主義的な根拠のない情報に接しても、「そういう考えがあるのかな」と思う程度であった。

それを変えたのが2002年の小泉訪朝と拉致の問題化であり、それをきっかけに彼のなかで

の「体系」ができあがっていく。彼自身は、ワールドカップと拉致問題が排外主義に傾斜したきっかけだと述べるが、ワールドカップについては後から遡及的に「おかしさ」に気づいている。それほど強い関心もなく、むしろ韓国を応援していたのが、ネット検索により問題を「発見」する。バーガー＝ Luckmannは、長期的な変化をもたらす制度の典型を宗教とする一方で、短期的に激しい変化をもたらす制度として病院と軍隊を挙げた (Berger and Luckmann 1966=1977: 274)。これらはゴフマンのいう全制的施設 (Goffman 1961) の典型であり、そうした環境でなければ激しい変化は生じにくいということでもある。つまりW氏の変化を支えていたのは、病院や軍隊のような全制的施設と化していたともいいうる、小泉訪朝後の日本であったともいえる³。

文献

- Berger, Peter and Thomas Luckmann, 1966, *The Social Construction of Reality: A Treatise in the Sociology of Knowledge*, Doubleday. (= 1977, 山口節郎訳『日常世界の構成——アイデンティティと社会の弁証法』新曜社.)
- Blee, Kathleen M., 1996, "Becoming a Racist: Woman in Contemporary Ku Klux Klan and Neo-Nazi Groups," *Gender and Society*, 10(6): 680-702.
- Goffman, Erving, 1961, *Asylum: Essays on the Social Situation of Mental Patients and Other Inmates*, Anchor. (= 1984, 石黒毅訳『アサイラム——施設被収容者の日常世界』誠信書房.)

³ もちろん、ゴフマンがいうような生活の隅々に至る管理が、日本社会でなされていたわけではない。だが、筆者の個人的経験でいえば、全制的施設というのは感覚的に間違っていない。筆者は、2002年8月下旬から10月上旬まで、調査のためにバングラデシュに滞在していた。当時のバングラデシュのインターネット環境では、日本のニュースサイトを閲覧するのは困難であり、現地英語紙で日本のニュースをみることもなかった。そうした情報の隔離状態から日本に戻った時、小泉訪朝を受けて報道や社会的雰囲気が一変しているのに驚かされた。日本全体が全制的施設と化したというのは、その時の印象にも依拠している。

- 樋口直人, 2012a, 「在特会の論理(1)～(7)」『徳島大学社会科学研究所』25号.
- , 2012b, 「在特会の論理(8)～(9)」『徳島大学地域科学研究』1号.
- , 2012c, 「『行動する保守』の論理(1)～(3)」『徳島大学地域科学研究』1号.
- , 2012d, 「在特会の論理(10)」『大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター年報』8号.
- , 2012e, 「行動する保守の論理(4)」『茨城大学地域総合研究所年報』45号.
- , 2012f, 「排外主義運動のミクロ動員過程——なぜ在特会は動員に成功したのか」『アジア太平洋レビュー』9号.
- , 2012g, 「在特会の論理(11)～(14)」『徳島大学地域科学研究』2号.
- , 2012h, 「『行動する保守』の論理(5)～(6)」『徳島大学地域科学研究』2号.
- , 2012i, 「在特会の論理(15)～(18)」『徳島大学社会科学研究所』26号.
- , 2013a, 「『行動する保守』の論理(7)」『アジア太平洋研究センター年報』9号.
- , 2013b, 「『行動する保守』の論理(8)」『茨城大学地域総合研究所年報』46号.
- , 2014, 『日本型排外主義』名古屋大学出版会.

（付記）科学研究費補助金によるプロジェクトの一部として本稿のもととなる調査はなされており、稲葉奈々子、申琪榮、成元哲、高木竜輔、原田峻、松谷満の各氏との共同研究によっている。記して感謝したい。